

東京大学 教養学部 推薦合格

本方 暁さん（渋谷教育学園渋谷高校出身）

ー東大推薦入試を受けようと思ったきっかけを教えてください。

渋谷では高 1 のときに「自調自考論文」という課題が出るのですが、何を扱おうかと考えた際に、中 2 の時に学校の課題でエチオピアの研究をし、とても楽しかったことを思い出しました。調べていくと日本の近代化への道と似ていることがわかり、特に日本の歴史が好きだった僕にとっては興味をひかれました。「植民地化時代のアフリカ」について研究し校内で発表したところ、その論文が優秀作品に選ばれ京都大で研究発表をすることに。研究発表では大学の教授にもその研究過程を褒めていただくことができたので、この研究成果を何かしら入試に使えないかと思い始めたのがきっかけです。

ー推薦入試出願に向けてどのような準備をしましたか。

校内選抜を経て 10 月に志願者調書の準備を行いました。11 月に出願し、12 月に 1 次選考の結果が出て、そこから小論文・面接の準備を始めました。小論文については過去 2 年分の過去問の小論文を解き、お茶ゼミの論文担当の先生に添削をお願いしました。面接はお茶ゼミの先生と、学校の先生に対応してもらいました。お茶ゼミの先生は、論文との関連性で矛盾した答えがあった場合、その指摘をしてくださったり、学校の先生は私の歴史の捉え方について突っ込んで指導してくださったりと、二人の先生から指導してもらうことができ様々な観点を取り入れて準備をすることができました。

ー一般入試の対策はどのように平行されていましたか。

推薦入試の出願は秋だったので、夏休みはほぼ東大一般入試に向けて対策していましたし、秋は推薦入試の準備をしながらも、センター試験対策を行っていました。

ーお茶ゼミに通うことになったきっかけを教えてください。

お茶ゼミのことは渋谷の先輩で通っている人がいたので知っていました。高 2 になって予備校を探し始め、大手を中心に調べました。他予備校の見学にも行ったのですが、お茶ゼミの体験授業を受けてみて、お茶ゼミの方が授業がとてもスマートでわかりやすかったのでお茶ゼミに決めました。

ーお茶ゼミの授業でよかったことを教えてください。

高 3 からは東大向けの授業を受講していました。初めは、東大レベルの問題に手こずっていましたが、お茶ゼミの授業では、ただ問題の解き方を教えてくれるのではなく、1 つの問題を通して「もっと多くの問題を解けるようにするための方針・指針」を教えてくださいました。

授業を受けていく中で高 3 の後半には、問題を見ただけで解き方の見当をつけられるようになりました。

－数学の成績は伸びましたか。

実際に入試一年前に東大同日模試を受けたときの数学の点数は 10 点程度でしたが、夏に受けた東大模試では半分以上の得点がとれ、東大 A 判定を出すこともできました。

－将来については、今どのように考えていますか。

研究者になるのか、ということ聞かれることもあるのですが、歴史がとても好きなので、その歴史の深さや面白さ、自分が調べたり学んだりしたことを積極的に発信できるような人になりたいと思っています。大学では、アフリカの研究が進んでいるヨーロッパへの留学も考えています。